**【上関町】**

**１人１台端末の利活用に係る計画**

**１　ＩＣＴ環境の充実によって目指すべき未来**

文部科学省は、今後の日本が目指していく「令和の日本型学校教育」の方針として、令和３年１月26日付で「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」を作成した。その中で日本が目指すべきものとして挙げられていたビジョンが、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実化させることである。

上関町もこれに倣い、１人１台端末の普及によって大きく変化していったICT環境を基盤に、「個別最適な学び」と「協働的な学び」のそれぞれを発展させていくことを、計画の目指すべき未来とする。

**２　「個別最適な学び」**

（１）　一人ひとりに合った学びの機会の提供

児童生徒の学力には個々の差が存在しており、学びの段階や出される問題をとっても、その最適な難易度は一人ひとりで異なっている。こうした差を教職員の手で調整していくことは現場にとって大きな負担となり、完璧にこなすことは難しいだろう。また、そうした状況では、児童生徒の成長にとっても十分な機会が与えられているとも言えない。

本町ではそうした現状を解決するために、児童生徒の学習にＡＩドリルを導入した。この学習アプリは使用者の解いた問題の達成度に応じて、学習状況、習熟度を把握し、次からはそれに合わせた問題を作成するシステムとなっている。これにより、児童生徒がそれぞれ自身の段階に合わせて、学習を行えるようになった。

（２）　それぞれが興味関心のある分野への足掛かり

また、１人１台端末によって、児童生徒は各々が情報を得られるようになった。この変化は授業中で調べ物をしている際などで非常に顕著であり、課題を作成するために必要な情報を、児童生徒が自身に与えられた端末を用いて調べる光景が本町でもよく見られる。文化祭で踊りを踊ることになった際も、児童生徒たちは動画配信サイトで踊りの振り付けを視聴し、理科の授業での生物観察でも様々なアングルで写真撮影を行っていた。

このように各自で“探して、見つける”、”考えて、取り組む“ことこそが、これからの社会で通用する人材になるために欠かせない要素であると考え、この芽を摘まぬように今後も児童生徒の１人１台端末に関する環境整備を充実させていきたい。

（３）　障害のある児童生徒や特別な支援を要する児童生徒への支援

　全ての児童生徒がネットワーク環境にアクセスできるようになったことは、障害のある児童生徒や特別な支援を要する児童生徒への支援にも役立っている。特に音声教科書の存在は大きく、紙の教科書を読むことが困難な児童生徒への学習指導は、音声教材の提供によって飛躍的に効率化している。

こういった児童生徒への学習指導は、教職員にも多くのスキルを求められ、既存の教育環境は、双方の負担、成長の面から考えても芳しいものではなかった。今では音声教材だけでなく、児童生徒にとって興味関心を持ちやすいよう、単なる問題集でなくゲームのような形式を取っているアプリも多い。今後もそういったものがあることを提示するなど、学校が希望した場合はそれらを用いる環境をすぐに準備できるよう、教育委員会として教職員、児童生徒の双方の負担軽減、成長に取り組んでいきたい。

**３　「協働的な学び」**

（１）　同じ学校内での学び

個ではなく集団としての学習活動の在り方も、１人１台端末によって大きく変化していっている。町内の学校では全てのクラスにおいて、クラスルーム系のアプリを導入しており、日々の日課や課題の提出等もそれらを用いて行っている。デジタルによって児童生徒の学習状況が分かりやすく可視化され、それは教職員の負担軽減にも繋がっている。

学校の授業においても、班ごとに分かれて行う集団による共同学習の際、１人１台端末のネットワークを通じて共同のものを同時に取り扱っている場面が見られた。実在する物体を複数人で取り扱う場合、どうしても作業に滞りが生じるし、スペース等の制約も課せられてしまう。１人１台端末はそういった障壁を乗り越えて、児童生徒の学習活動をスムーズなものへと昇華している。

（２）　異なる学校間での学び

デジタルによる利点の一つに、距離の制約を超え、離れた場所にいる者とリアルタイムで繋がることができることが挙げられる。本町の試みとして実践されたのは、町内学校の児童生徒がミーティングアプリ等を用いて、他市町の学校の児童生徒や海外の児童生徒とのオンライン会話を行ったことなどがある。

人口が少なく、同じ敷地内以外の児童生徒との交流が難しかった本町において、これはとても大きな変革であった。普段会うことのない人間との交流は、児童生徒達の学習に違った彩りを与えるであろう。特に海外の学生と直接英語でやり取りを行う経験は早々あるものではない。英語教育に力を入れている本町にとって、貴重な学習機会の場となった。

**４　GIGA第１期の総括**

本町がGIGA第１期として取り組んだ事業を、ハード面とソフト面の観点から統括していく。

まず、ハード面では令和２年度に120台（iPad）を1人1台端末として児童生徒が使用できるように整備し、併せて各学校の通信ネットワーク環境を整備したことが当たる。初年度から1人1台端末の普及率を100％とし、以降もそれを継続していったことは大きな効果である。また、教職員も児童生徒と共にICT活動が行えるように、全学校の教職員に児童生徒と同様に100％の普及率で1人1台端末を配備している。

次にソフト面だが、クラスルームアプリ、AIドリルをはじめとしたクラウドアプリの導入。教育委員会の担当者によるアプリ、クラウドサービスの利活用に関する指導。ならびにICT支援員の雇用による、学校内でのICT活動を遅滞なく進められるように整備したことが挙げられる。導入当初は、現場の教職員において1人1台端末などのICT機器に慣れないケースが続出したが、そうした場合でも教育活動に支障が出ないよう、教育委員会の担当者、ICT支援員が万全のサポートを行っている。特に、ただ代わりに業務を行うのではなく、ICT機器やツールの仕組みや使用方法を伝授し、いずれは自力で作業できるように指導しているのが特徴であり、業務の負担軽減だけでなく人材育成にも繋がるような支援を行っている。

以上の取り組みに関する成果は、学校へのヒアリング結果を元に記載する。

児童生徒の状況については、令和６年度「全国学力・学習状況調査」の学校質問紙調査を参照。

教職員の状況については、令和５年度に行った「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」を参照した。

多くの項目について、良い成果が得られており、今までの施策が実を結んだと言える。

特に児童回答（小学校）はかなりよい結果となっており、小学生の頃からICT機器に馴染ませることによって、中学生、高校生とより高度な扱いを要する年代へ成長することに向けての礎となっている。今後とも学習活動とICT機器を上手く融和させ、学力だけでなく、ICT機器に関する活用スキルも併せて向上させていきたい。

反面、中学校（生徒回答）は芳しくない項目が幾つか見られた。特に深刻と思われるのが、学習活動におけるICT機器の使用頻度が極めて高いのに対し、生徒がそれに対する利便性をあまり感じていないことである。このままではICT機器で学習活動を効率的に行えるようにするというGIGAスクール構想の理念とは真逆の結果を生みかねない。そのため、第2期においては中学校のICT環境の改善が重要になると考えている。

最後に教職員の回答についてだが、こちらについては概ねよい結果になったと見ていいだろう。全体的に教職員のスキル育成が進んでおり、それが児童生徒の回答にもある授業におけるICT機器の使用頻度の高さに繋がっている。ただし、指導者がICT機器を活用できなければ、実際の現場で児童生徒に有効に活用させることもできないため、教職員のICTスキルには「学校全体での平均的なレベルの高さ」だけでなく、「全員が一定のラインを超えていること」も重要である。教職員の回答からは、ICT機器の活用を苦手とする者が僅かながらもいることが知れるため、そうした者へも十分な知識、スキルを伝授することが課題であると考える。

**児童生徒の状況について**

質問番号（４）

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 児童回答 | 3時間以上 | 2～3時間 | 1～2時間 | 0.5～1時間 | 0.5時間未満 | 全く使ってない |
| 上関町 | 0.0% | 10.0% | 40.0% | 0.0% | 20.0% | 30.0% |
| 全国（公立） | 3.2% | 4.3% | 12.3% | 24.4% | 29.9% | 25.9% |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 生徒回答 | 3時間以上 | 2～3時間 | 1～2時間 | 0.5～1時間 | 0.5時間未満 | 全く使ってない |
| 上関町 | 0.0% | 12.5% | 25.0% | 25.0% | 37.5% | 0.0% |
| 全国（公立） | 2.3% | 3.8% | 10.5% | 19.8% | 34.8% | 28.4% |

質問番号（２７）

小学５年生まで（生徒の場合、中学１、２年生のとき）に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 児童回答 | ほぼ毎日 | 週3回以上 | 週1回以上 | 月1回以上 | 月1回未満 |
| 上関町 | 20.0% | 50.0% | 30.0% | 0.0% | 0.0% |
| 全国（公立） | 25.3% | 34.2% | 26.0% | 10.3% | 4.2% |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 生徒回答 | ほぼ毎日 | 週3回以上 | 週1回以上 | 月1回以上 | 月1回未満 |
| 上関町 | 75.0% | 12.5% | 0.0% | 0.0% | 12.5% |
| 全国（公立） | 31.0% | 33.4% | 24.6% | 7.8% | 2.8% |

質問番号（２８）

小学５年生まで（生徒の場合、中学１、２年生のとき）の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか

（１）自分のペースで理解しながら学習を進めることができる

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 児童回答 | とてもそう思う | そう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
| 上関町 | 30.0% | 60.0% | 10.0% | 0.0% |
| 全国（公立） | 33.8% | 51.7% | 11.9% | 2.5% |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 生徒回答 | とてもそう思う | そう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
| 上関町 | 12.5% | 25.0% | 50.0% | 12.5% |
| 全国（公立） | 28.7% | 51.5% | 16.0% | 3.3% |

（２）分からないことがあった時に、すぐに調べることができる

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 児童回答 | とてもそう思う | そう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
| 上関町 | 60.0% | 40.0% | 0.0% | 0.0% |
| 全国（公立） | 58.4% | 33.7% | 6.3% | 1.5% |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 生徒回答 | とてもそう思う | そう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
| 上関町 | 62.5% | 37.5% | 0.0% | 0.0% |
| 全国（公立） | 62.8% | 31.1% | 4.0% | 1.2% |

（３）楽しみながら学習を進めることができる

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 児童回答 | とてもそう思う | そう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
| 上関町 | 10.0% | 70.0% | 20.0% | 0.0% |
| 全国（公立） | 46.9% | 39.1% | 11.1% | 2.8% |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 生徒回答 | とてもそう思う | そう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
| 上関町 | 25.0% | 37.5% | 12.5% | 25.0% |
| 全国（公立） | 39.1% | 43.3% | 13.4% | 3.4% |

（４）画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 児童回答 | とてもそう思う | そう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
| 上関町 | 30.0% | 60.0% | 10.0% | 0.0% |
| 全国（公立） | 47.6% | 42.2% | 8.3% | 1.9% |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 生徒回答 | とてもそう思う | そう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
| 上関町 | 37.5% | 25.0% | 37.5% | 0.0% |
| 全国（公立） | 42.9% | 46.1% | 8.2% | 2.0% |

（５）自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 児童回答 | とてもそう思う | そう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
| 上関町 | 50.0% | 40.0% | 10.0% | 0.0% |
| 全国（公立） | 33.3% | 45.9% | 17.2% | 3.5% |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 生徒回答 | とてもそう思う | そう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
| 上関町 | 12.5% | 50.0% | 25.0% | 12.5% |
| 全国（公立） | 30.1% | 47.6% | 17.6% | 3.7% |

（６）友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 児童回答 | とてもそう思う | そう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
| 上関町 | 20.0% | 60.0% | 20.0% | 0.0% |
| 全国（公立） | 44.6% | 41.5% | 11.1% | 2.7% |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 生徒回答 | とてもそう思う | そう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
| 上関町 | 25.0% | 25.0% | 50.0% | 0.0% |
| 全国（公立） | 41.0% | 45.2% | 10.3% | 2.7% |

（７）友達と協力しながら学習を進めることができる

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 児童回答 | とてもそう思う | そう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
| 上関町 | 40.0% | 50.0% | 10.0% | 0.0% |
| 全国（公立） | 46.2% | 40.9% | 10.2% | 2.7% |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 生徒回答 | とてもそう思う | そう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
| 上関町 | 25.0% | 37.5% | 25.0% | 12.5% |
| 全国（公立） | 39.8% | 45.4% | 11.1% | 2.9% |

**教職員の状況について**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | できる | やや できる | あまり できない | ほとんど できない |
| Ａ－１　教育効果を上げるために，コンピュータやインターネットなどの利用場面を計画して活用する。 | **11** | **6** | **0** | **0** |
| Ａ－２　授業で使う教材や校務分掌に必要な資料などを集めたり，保護者・地域との連携に必要な情報を発信したりするためにインターネットなどを活用する。 | **13** | **2** | **2** | **0** |
| Ａ－３　授業に必要なプリントや提示資料，学級経営や校務分掌に必要な文書や資料などを作成するために，ワープロソフト，表計算ソフトやプレゼンテーションソフトなどを活用する。 | **13** | **4** | **0** | **0** |
| Ａ－４　学習状況を把握するために児童生徒の作品・レポート・ワークシートなどをコンピュータなどを活用して記録・整理し，評価に活用する。 | **10** | **6** | **1** | **0** |
| Ｂ－１　児童生徒の興味・関心を高めたり，課題を明確につかませたり，学習内容を的確にまとめさせたりするために，コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。 | **11** | **5** | **1** | **0** |
| Ｂ－２　児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり，比較検討させたりするために，コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。 | **9** | **8** | **0** | **0** |
| Ｂ－３　知識の定着や技能の習熟をねらいとして，学習用ソフトウェアなどを活用して，繰り返し学習する課題や児童生徒一人一人の理解・習熟の程度に応じた課題などに取り組ませる。 | **10** | **7** | **0** | **0** |
| Ｂ－４　グループで話し合って考えをまとめたり，協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に，コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。 | **9** | **7** | **1** | **0** |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | できる | やや できる | あまり できない | ほとんど できない |
| Ｃ－１　学習活動に必要な，コンピュータなどの基本的な操作技能（文字入力やファイル操作など）を児童生徒が身に付けることができるように指導する。 | **9** | **7** | **1** | **0** |
| Ｃ－２　児童生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して，情報を収集したり，目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導する。 | **10** | **7** | **0** | **0** |
| Ｃ－３　児童生徒がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して，調べたことや自分の考えを整理したり，文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるように指導する。 | **8** | **9** | **0** | **0** |
| Ｃ－４　児童生徒が互いの考えを交換し共有して話合いなどができるように，コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。 | **5** | **11** | **1** | **0** |
| Ｄ－１　児童生徒が情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち，相手のことを考え，自他の権利を尊重して，ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導する。 | **8** | **8** | **1** | **0** |
| Ｄ－２　児童生徒がインターネットなどを利用する際に，反社会的な行為や違法な行為，ネット犯罪などの危険を適切に回避したり，健康面に留意して適切に利用したりできるように指導する。 | **9** | **7** | **1** | **0** |
| Ｄ－３　児童生徒が情報セキュリティの基本的な知識を身に付け，パスワードを適切に設定・管理するなど，コンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導する。 | **9** | **7** | **1** | **0** |
| Ｄ－４　児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気付き，学習に活用したり，その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。 | **8** | **9** | **0** | **0** |

**５　今後に向けた１人１台端末の利活用方策**

（１）　児童生徒がより端末を利活用できるように

上述した令和６年度「全国学力・学習状況調査」の学校質問紙調査の結果によると、本町の結果は全国平均と比べても概ね良い結果を出していると言える。しかし、中には芳しくない結果もあり、それが下記の四項目である。

質問番号（２８）

小学５年生まで（生徒の場合、中学１、２年生のとき）の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか

（１）自分のペースで理解しながら学習を進めることができる

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 生徒回答 | とてもそう思う | そう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
| 上関町 | 12.5% | 25.0% | 50.0% | 12.5% |
| 全国（公立） | 28.7% | 51.5% | 16.0% | 3.3% |

（４）画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 生徒回答 | とてもそう思う | そう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
| 上関町 | 37.5% | 25.0% | 37.5% | 0.0% |
| 全国（公立） | 42.9% | 46.1% | 8.2% | 2.0% |

（６）友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 生徒回答 | とてもそう思う | そう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
| 上関町 | 25.0% | 25.0% | 50.0% | 0.0% |
| 全国（公立） | 41.0% | 45.2% | 10.3% | 2.7% |

（７）友達と協力しながら学習を進めることができる

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 生徒回答 | とてもそう思う | そう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
| 上関町 | 25.0% | 37.5% | 25.0% | 12.5% |
| 全国（公立） | 39.8% | 45.4% | 11.1% | 2.9% |

いずれも生徒の回答結果であるが、全国（公立）の結果と比べて、「あまりそう思わない」の回答比率がかなり高くなっている。児童に対して生徒は1人1台端末を授業、持ち帰り等で使う機会が多い。上記回答のような現状は学習活動に支障をきたすため、早急な改善が必要となる。

今後はICT機器を用いた授業などの視察回数を増やし、児童生徒がどのような形で1人1台端末を用いているかを教育委員会にフィードバックし、学習活動の実態に即したアプリ、体制の整備を推し進めていきたい。

（２）　教職員のITスキルの向上

令和５年度に行った「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」では、殆どの教職員が「ややできる」以上を選択しており、」全体的にICT機器に対するスキルが成長していることが伺える。

その上で課題としては、

１．全ての教職員が「ややできる」以上を回答できるようにすること

２．より複雑化していく、ICTを用いた教育現場に、教職員が対応できるようにすること

の二点が挙げられる。

今後は教育委員会によるICT研修の更なる実施やクラウドサービスの取り扱いに対するマニュアル等を整備し、教職員が「わかりやすく」「簡単にできる」環境を作り出していきたい。